

1. 調査の目的

1.1 調査の目的・概要

大阪府箕面市は、大阪のベッドタウンとして発展してきたことにより、大阪都心との結びつきが強い地域となっている。しかし、公共交通の現状は、都心方面への移動が千里中央駅を経由するバスと鉄道の乗り継ぎとなることや、市内バス路線の路線数や運行回数が利用者にとって十分とは言えない状況にあり、利用交通手段としては自家用自動車への依存が高いものとなっている。

今後の地域の活性化、少子高齢化への対応、環境問題への対応等のためには、公共交通の活性化を図り、自動車交通から公共交通への転換を図っていくことが必要である。本調査では、北大阪急行線延伸計画等の各種計画を踏まえて、中長期にわたるバス路線再編を含めた地域の公共交通体系のあり方等の検討とともに、公共交通機関の利便性向上策の検討、モビリティ・マネジメント施策の展開等による啓発・利用促進、自転車と公共交通との連携等の検討を行う。

本調査における広域的・中長期的施策である公共交通のあり方に関する検討結果は、別途開催されている北大阪急行線延伸検討委員会に反映させるとともに、次期総合計画、交通体系マスタープラン等への活用や、今後具体的にバス路線網再編の検討を行う際の検討材料とする。また、公共交通の利用促進に関する検討結果は、地域公共交通総合連携計画等関係者による取り組みを前進・継続させるためのプログラムとする。

1.2 調査の基本的な考え方・全体構成

現在、箕面市は関係者と北大阪急行線延伸計画の事業化に向けた検討を進めている。延伸が実現すると、これまでのバスを主体とした交通システムから鉄道を主体とした交通システムへと転換し、箕面市内の交通ネットワークの大きな転換期を迎えることになる。この北大阪急行線の延伸実現時には、これまで千里中央へ集中していたバス路線網の再編等、広域的な公共交通網の抜本的な見直しにより、北大阪地域全体として公共交通による機能的な交通ネットワークを再構築し、公共交通の活性化を図る必要がある。

一方、北大阪急行線延伸が実現するには、最短でも10年近くの期間を要するため、現在の箕面市の交通に関する課題である「市民満足度が非常に低い公共交通」や「自家用車への過度な依存」等に対して、具体的な方策を進めることにより、自動車交通から公共交通への転換を図る必要がある。

このような背景を踏まえ、本調査は、以下の検討により、箕面市の公共交通活性化のプログラム検討を行うものである。

【方針等の検討】

箕面市における交通の現状と課題を整理し、課題解決の基本方針について、広域的・中長期的な視点及び短期的な視点から整理を行う。

- ① 箕面市における交通面の現状と課題の整理
- ② 課題解決の基本方針の検討
 - ・ 広域的・中長期的な基本方針
 - ・ 短期的な基本方針

【具体施策の検討】

北大阪急行線の延伸は、長期的な計画であり、最短でも10年近くの期間を要する。そのため、箕面市内の公共交通の利便性向上の考え方としては、以下の2つの段階を想定した検討を行う。

- ③ 北大阪急行線の延伸が実現し、箕面市のまちづくりが完成形に近づき、交通システムもこれまでのバスを主体とした交通システムから鉄道を主体とした交通システムに変化したときの、望ましい「公共交通のあり方の検討」
 - 広域的・中長期的な視点から「延伸実現時のバス路線網の再編のあり方」や「交通結節点の機能」について検討
- ④ 現時点から北大阪急行線の延伸が実現するまでの間で、計画的に望ましい姿に近づけていくために、現在、箕面市の交通に関する課題である「市民満足度が非常に低い公共交通」や「自家用車への過度な依存」等に対して、短期的かつ継続的に取り組むべき「公共交通の利用促進の検討」
 - 短期的な視点から「モビリティ・マネジメントの取り組み方策」や「バス利用促進方策」、「自転車と公共交通との連携方策」について検討

③の公共交通のあり方の検討結果については、別途開催されている北大阪急行線延伸検討委員会に反映させるとともに、次期総合計画、交通体系マスタープラン等への活用や、今後具体的にバス路線網再編の検討を行う際の検討材料とする。

また、④の公共交通の利用促進に関するものについては、地域公共交通総合連携計画等関係者による取り組みを前進・継続させるためのプログラムとする。

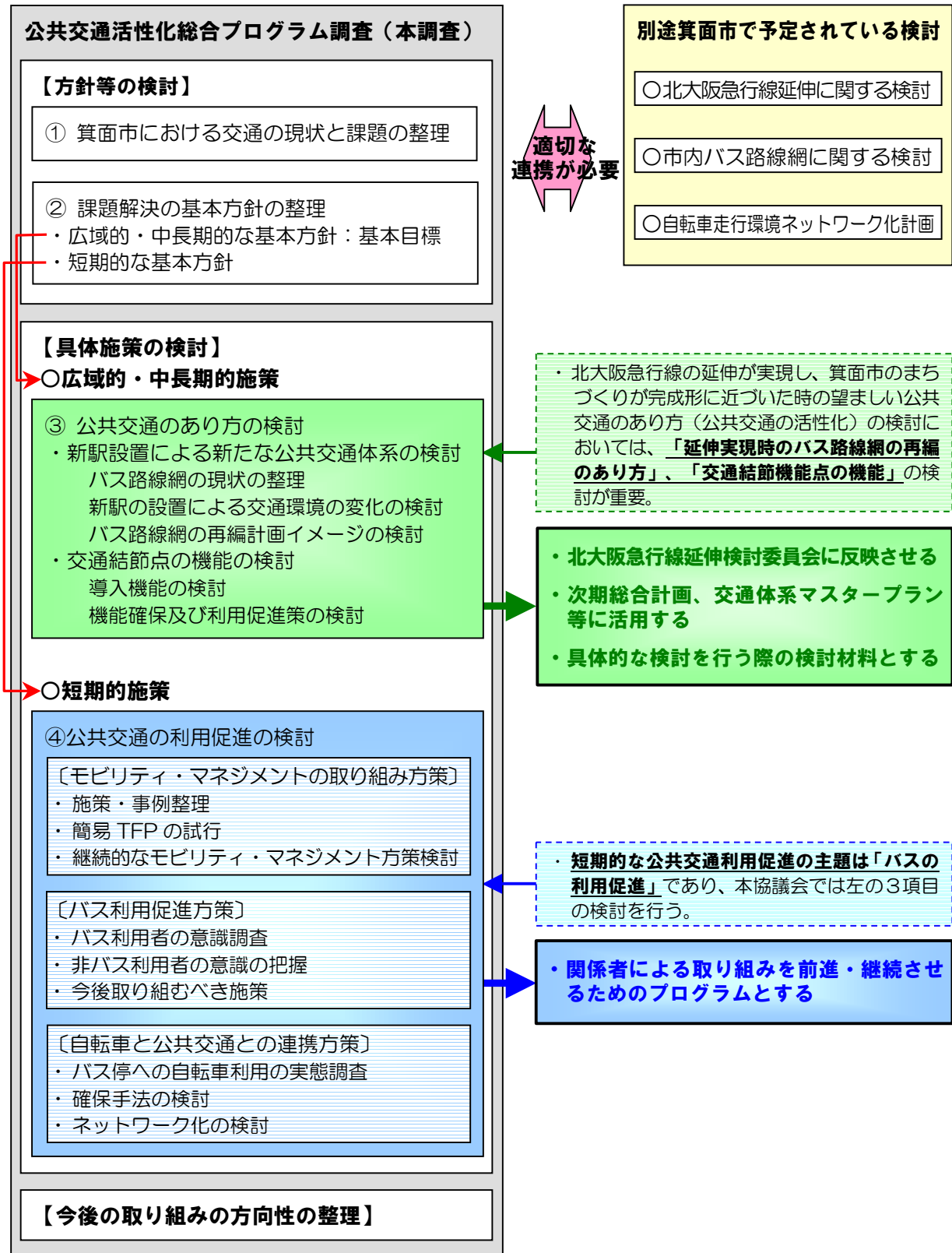
●他の調査検討との適切な連携

なお、本調査に関連して、箕面市においては、平成 20 年度に北大阪急行線延伸の検討や市内バス路線の検討、自転車走行環境ネットワークの検討が行われる予定のため、本調査は、これらの関連する調査とも適切に連携を図りながら検討を進める。

特に、北大阪急行線の延伸整備計画とは関連が深く、バス路線の再編によって鉄道利用の需要予測に影響を及ぼすため、同計画と十分に整合を図り、検討を行うこととする。

■調査の構成イメージ

【協議会で検討を進める】



1.3 調査スケジュール

調査スケジュールを以下に示す。

調査項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
箕面市における交通の現状と課題整理	■								
課題解決の基本方針の整理	■								
公共交通のありかたの検討	■								
公共交通の利用促進の検討	■								
今後の取り組み方針の整理						■			
報告書のとりまとめ									■
協議会の開催	●				●			●	●

協議会の各回における議題・検討内容を以下に示す。

○第1回 (平成20年7月29日)

- ・ 検討概要及びスケジュール
- ・ 交通の現状と課題、課題解決の基本方針
- ・ 公共交通のあり方
- ・ 公共交通の利用促進策の検討

○第2回 (平成20年11月4日)

- ・ 第1回協議会における意見、対応方針
- ・ 課題、基本方針の確認
- ・ 公共交通のあり方(案)の整理
- ・ モビリティ・マネジメント(TFP)、バス利用者調査、自転車利用実態調査の中間報告と今後の検討内容(案)の整理

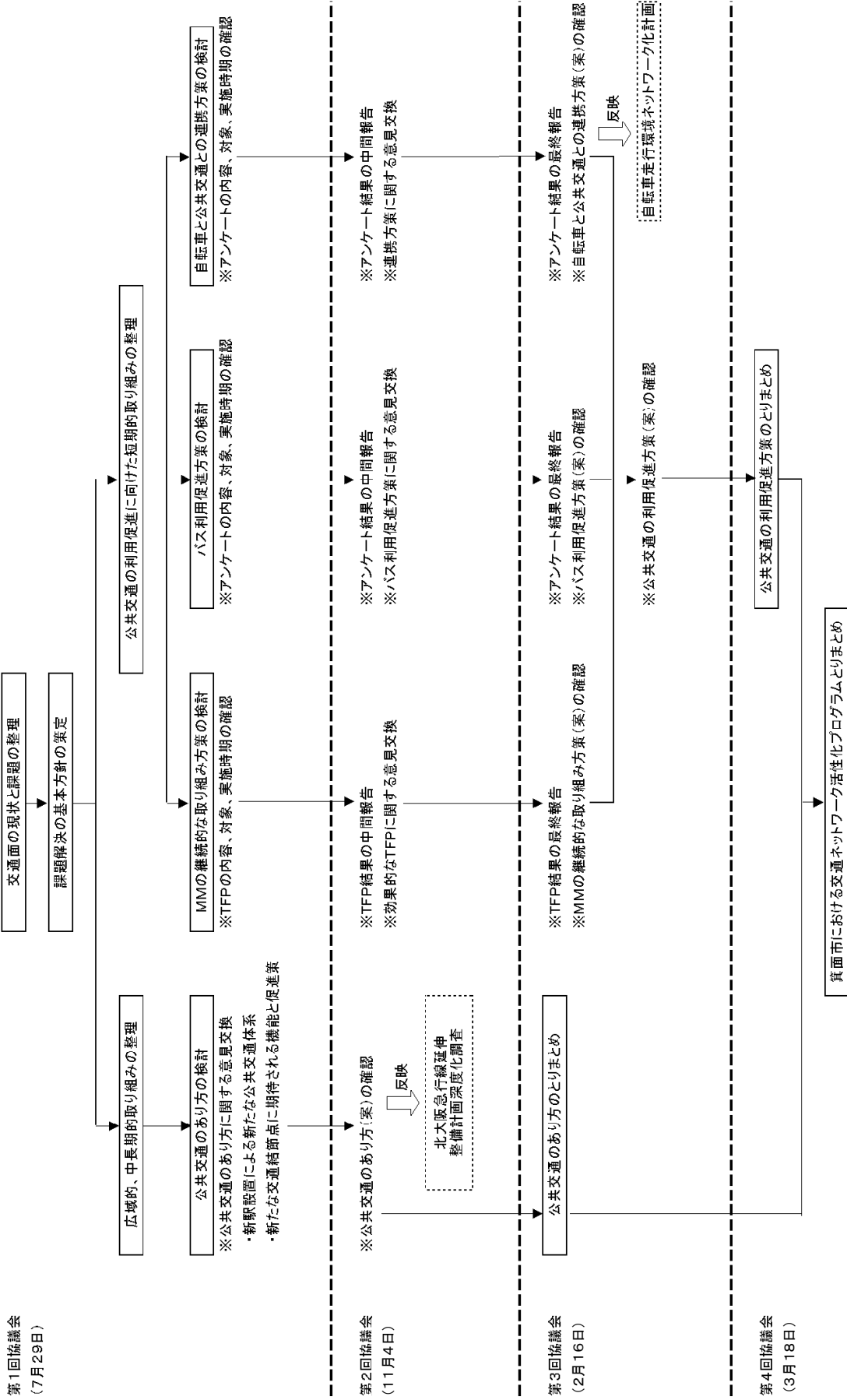
○第3回 (平成21年2月16日)

- ・ 第2回協議会における意見、対応方針
- ・ 本協議会における議論の枠組み
- ・ モビリティ・マネジメント(TFP)の取り組み方策、バス利用促進方策、自転車と公共交通との連携方策
- ・ とりまとめ(案)

○第4回 (平成21年3月18日)

- ・ 第3回協議会における意見、対応方針
- ・ とりまとめ(案)の確認

箕面市における交通ネットワーク活性化プログラム 調査の全体フロー



1.4 調査・検討体制

本調査は、学識経験者、近畿運輸局、大阪府、箕面市、交通事業者、市民等の関係者による協議会を組織し、各調査の成果ならびに検討内容についての報告を受け、調査・検討内容の確認と取りまとめを行った。

協議会の委員ならびに事務局等の構成員は、以下のとおりである。（敬称略）

座長	新田 保次	大阪大学 大学院 工学研究科 教授
副座長	松村 暢彦	大阪大学 大学院 工学研究科 准教授
委員	斎藤 峻彦	近畿大学 経営学部 教授（オブザーバー）
委員	上村 正美	阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部 都市交通計画部長
委員	松本 敬史	北大阪急行電鉄株式会社 取締役 鉄道部長
委員	西山 哲	阪急バス株式会社 自動車事業部長
委員	大石 良部	街づくり支援センターみのお（NPO）
委員	松木 亮	箕面市民（自転車道ネットワーク公募市民）
委員	吉田 敏子	粟生第二住宅自治会長（第2回協議会から参画）
委員	菅 武彦	桜ヶ丘会自治会長（第2回協議会から参画）
委員	堤 俊哉	国土交通省近畿運輸局 企画観光部交通企画課長
委員	下谷 富雄	国土交通省近畿運輸局 自動車交通部旅客第一課長
委員	下畑 賢治	国土交通省近畿運輸局 大阪運輸支局首席運輸企画専門官
委員	井出 仁雄	大阪府 都市整備部 交通道路室 参事
委員	中井 勝次	箕面市 市長公室長
委員	伊藤 哲夫	箕面市 都市計画部長
委員	山田 学	箕面市 都市環境部長
委員	森田 雅彦	箕面市 教育委員会 教育推進部長（第1～2回協議会に参画）
委員	森井 國央	箕面市 教育委員会 教育推進部長（第3～4回協議会に参画）
委員	酒井 順三	豊中市 土木部 参事（オブザーバー）

事務局 国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局
箕面市 都市計画部 交通政策課

作業協力 中央復建コンサルタンツ株式会社